

錦織剛清（にしきせいり）相馬家舊家臣。安政二年二月十五日陸奥國宇多郡生れ、大正九年二月二十三日歿（八五—一九二〇）。號華翁、愚翁居士、蝨心居士、蝨心愚翁居士。家督争ひ河中の明治二十五年、當主相馬誠胤の病死せるを毒殺の疑ひありと告訴、自ら「神も佛もなき闇の世の中」（第七版・明治二十六年八月十八日春陽堂。のち「明治記録文學集」昭和四十一年九月二十日筑摩書房「明治文學全集」所収）、「御家闇の梅」（蝨蛸庵主人合作、明治二十六年八月二十一日魁道樓）を著はすなど、明治最大の御家騒動を惹き起すも、逆ひ逆生出来ぬ訴へられ、二十八年重



禁錮四年罰金四十圓の刑を受けた。その後の動靜は不明といふ。

以下二十六年中刊行せられた事件關聯書は、笹の家主人「相馬内裡妖魔束帯」（八月十一日村松恒一郎刊、扶桑堂發賣）、渡邊綱「明治掃魔の曙」（今村次郎速記・錦織剛清校閲、八月二十九日中央書院功刊、八八正館發賣）、翠葉「夫馬毒殺裁判秘録」上下二冊（九月四日大日本書籍行商社）、天民居士「相馬事件噂の始末」（九月六日川原棍二郎編輯、大阪・鍾美堂）、蝨蛸庵主人「相馬騒動闇黒世界」（九月七日久永廉三刊、金松堂發賣）、覺非居士「相馬事件闇の夜の墓——名掃魔騒動史」（九月十日愛麗堂藏版、嶋田新聞店）、筆誅庵主人「忠忠の相馬の怪談」（九月十一日林勝太郎刊）、鐵拳道人「相馬實録錦蛇裏」（十一月一日田代爲信編輯、須原産號松成堂發賣）、惠澤正利談話「錦織陰謀始末——闇の世の中辯妄」



(十一) 月十日惠澤正和・村田順造刊、大阪・岡島實文館・岡島新風館
發賣。十六日惠澤正和刊、岡島千郎書店發賣(等、等、等)。